河北新報　12.8.25

陸前高田に応援派遣の盛岡市職員が自殺　「申し訳ない」遺書

東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市に応援派遣されていた盛岡市の男性職員（３５）が７月下旬に自殺していたことが２４日、分かった。男性は「希望して被災地に行ったが、役に立てず申し訳ない」という趣旨の遺書を残していた。岩手県は支援業務が自殺の要因の一つになったとみて、被災した沿岸部の全１２市町村に職員の心のケアなどを徹底するよう通知した。

陸前高田市などによると、男性はことし４月、技師として盛岡市道路管理課から陸前高田市水産課に派遣された。任期は１年間で、漁港復旧などの業務に従事していた。県が６月に男性と面談した際は、特に変わった様子などは見られなかったという。

男性は遠野市内で７月２２日、路上に止めた車内で死亡しているのが見つかり、遺書も車内にあった。県警は現場の状況などから自殺とみている。

県によると、沿岸部の被災自治体で、県職員や他の市町村職員の応援派遣を受けているのは１０市町村で計２３９人（１日現在)。派遣先は陸前高田市と大槌町がそれぞれ５５人で最も多い。